

令和2年度 学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動をより充実する。また、保護者及び地域への情報発信を積極的に行う。 ・保護者へのホームページ、メールの認知度を高めるとともに、積極的な情報発信 ・卒業後の自立と社会参加につながる児童生徒一人一人の特性及び保護者のニーズを踏まえた、12年間のつながりあるキャリア教育 ・校内及び地域における特別支援教育を推進していくための教員の資質及び専門性の向上</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>教頭</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスを推進する。</p>	<p>在校時間が縮減し教員一人一人が自分の働き方について考えめりはりのある働き方を実践する。 教員が退校時刻を遵守し業務の改善や効率化を推進する。</p>	<p>・教員の在校時間(超過分)について前年度実績(新型コロナウイルス感染症拡大に係る学校休業期間の4月と5月を除く)と比べると、月平均25.5時間から23.5時間とやや改善が見られた。また、月45時間を超えて勤務に当たっている教員数の比較では、延べ154人から76人と約半分に減った。このことから教員の働き方に対する意識の変化が進んできた」と評価できる。 ・半面、長時間勤務をしている教員がおおよそ固定している状況もあり、今後さらなる業務の精選と効率化、組織の役割分担について推進していくことが課題である。</p>
<p>小学部</p>	<p>キャリア教育の推進</p>	<p>小学部のキャリア教育の目標、低・中・高学年・重複障害学級の各段階でのねらいを具体化する。</p>	<p>キャリア教育の実態把握ツールの有効活用とともに、子どもと保護者の願いを受け止め、小学部各段階の教育的ニーズを反映したキャリア教育のねらいを具体的に検討する。</p>
	<p>行事の精選</p>	<p>子どもの生活に生きて使える力の育成という視点から校外学習等の目標の体系化を図る。</p>	<p>校内研究と密接に連携し、キャリア教育の視点から校外学習(宿泊学習、修学旅行などを含む)の目標と手立てを検討する。</p>
	<p>安全管理</p>	<p>けがの予防</p>	<p>安全で分かりやすい学習環境の整備と事故防止についての理解を深める。</p>
<p>中学部</p>	<p>キャリア教育の推進</p>	<p>生徒の将来の生活を見据え、主体的に学べる授業作り</p>	<p>新学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、年間指導計画を立案し、実施する。</p>
	<p>安全指導</p>	<p>自らの危険を察知したり回避したりする力の育成</p>	<p>日常生活の中で起こりうる危険について、生徒一人一人の安全意識の向上を図る。</p>

				<p>おいても、指摘を受けることで行動を振り返る様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年において、防災訓練や防災教育の単元を設定した。シェイクアウトや防災頭巾をかぶっての避難、非常食の扱いを経験することで、身を守る方法に慣れることができた。
	行事の精選	行事についての検討	<p>中学部として取り組むべき行事についての検討を、他部とも調整しながら行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、宿泊学習や校外学習など、一部の活動を代替案あるいは教室内での学習として行った。ねらいが達成できるように、内容を工夫した。 宿泊行事及び社会見学については、学校における新しい生活様式を踏まえて、部内では検討を進めた。今年度の取組をもとに、今後さらに他部との連携を深めていく。
高等部	キャリア教育の推進	自らの将来を考え、具現化に向けての力の育成のための体制づくり	<p>デュアル実習の実践と検証を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より第2学年の生徒が、作業学習の授業時間に、学校から徒歩圏内にある10事業所(一般企業及び福祉事業所)の協力を得て、「デュアル実習」を実施した。実際の現場で仕事を体験することにより、生徒の自己選択、自己決定の場としてとても有益であった。その課題として、教員間の情報共有、実習先との更なる連携が挙げられた。今後、これらの課題を改善しつつ、デュアル実習と校内での作業学習、進路指導とのつながりをより深め、より効果的に機能していく方策を講じていく。
	専門性の向上	社会で必要とされる力の把握と、学校生活での教育実践	<p>企業及び福祉事業所へ訪問など、研修の機会を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初は企業及び福祉事業所へ訪問するなどの研修を視野に入れていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかった。それを補うための手段として、産業現場等における実習で生徒が事業所の方に指摘されたことや注意を受けたことなどを、巡回指導に出向いた教員が情報としてまとめ、部内に発信することとした。その情報を共有することで、日々の教育実践に生かすようにした。 進路指導主事より、生徒が社会に出てから求められている力について、教員を対象とした全校研修を行った。各部の教員が、卒業後の姿を知ることができた。高等部では、生徒が仕事に対する意識、自主性、意欲を高められる授業実践や学校生活となるよう、取り組んでいる。今後も継続していきたい。
	地域への情報発信	地域と共に生きる人材の育成	<p>つながりをもった地域資源との交流を継続し、深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より農業と福祉を融合させた大府市役所主催「ノウフク実践講座」に第1学年生徒が参加した。緊急事態宣言により、年度当初3回予定されていた活動が2回となったが、さつまいもの収穫、干し芋への加工など、地域の農家の方から農作業について学ぶことができた。活動を通して農業に興味をもった生徒もおり、将来に向けての自己選択・自己決定の一助になった。 岡崎信用金庫主催「BOX ティッシュのデザイン」に応募し、本校生徒の作品が採用された。企業のノベルティグッズとなり、多くの人に知っていただく機会となった。
総務	保護者への情報発信	<p>PTA事業の充実と関連する情報の発信</p>	<p>PTAと連携し、保護者のニーズに応じた事業を実施する。ホームページやメール配信等にて事業に関する情報発信を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> PTA委員と入念に計画し、検温や消毒など感染症対策を十分に行った上で、部別座談会やPTAバザーを実施することができた。 書面のほかに、メール配信やホームページを用いてPTAに関する情報を発信することができた。 次年度に向け、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、PTAとして実施できる活動を模索するとともに、その取組について全保護者への理解が深まるようにこまめな情報発信を進めていく。

教務	教育課程	キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の検討	教科別の指導科目において、学習指導年間計画と学習指導要領をもとに、段階ごと（小から高までの7段階）の内容や目的を整理し、モデル案を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の実施を前提とした計画であったため、臨時休業の影響を受け、研究の進め方を変更した関係で、モデル案の作成は行えなかった。学校全体でキャリア教育について研修し直したことを生かし、次年度から新学習指導要領で示された育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえ、12年間のモデル案を作成する。 小学部では、身辺自立について小学部卒業時における目指す姿について指導段階表を作成し、生活単元学習の内容を検討及び精選し、次年度の研究の土台とする。中学部では、評価表を基に作業学習を展開し、各学年の重点目標を明確にして次年度の研究へつなげる。高等部では、デュアル実習を実施して得た課題を、作業学習の内容や進め方等に反映し、指導方法の充実と確立を目指していく。
教育情報	情報発信	ホームページ内容の充実	日々の教育活動や行事の様子を発信する。学校の魅力が伝わるように内容を検討し更新する。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに本校の新型コロナウイルス感染症対応について掲載したり、臨時休業期間中の家庭学習用に動画配信を行ったりした。部や学年により更新頻度に差はあったものの、児童生徒が学習できるように環境を整えることができた。 日々の活動の様子を各部、月1回を目標に更新を行った。児童生徒の様子をホームページ上から伝えることができた。 今後、より多くの保護者に見ていただくために、見易さや更新後の通知を出していけるシステム作りなどを工夫する。
研修	校内研修 校内研究	校内研修、研究の充実	児童生徒の自立と社会参加に向けて、支援に繋がる研修を計画し教員の資質及び専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初計画をしていた外部講師を招いた現職研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で来校を依頼することや教員の集合が難しく、動画視聴やスライドなど研修方法を変えて実施した。選択研修も、夏季休業の短縮や外部関連の自粛のため、校内講師で行う進路関連の講話やICT機器の活用等に計画を変更し、授業や教材作りに役立てた。 校内研究としては、新型コロナウイルス感染症対策の影響により当初の2年計画を3年計画に延長し、教務部や進路部と連携しながら講話等を行った。次年度以降の研究の充実を目指し、キャリア教育について考え方や意識の統一をしたり、外部講師による「就労からみたキャリア教育」の講話を聞いたりした。また、今後取り組むべき課題の整理なども進めた。
生活指導	安全指導	防災計画、防災教育の充実	地震、火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、保護者への引き渡し訓練を実施した。実施後の保護者アンケートでは、訓練全体に対し約18%が「どちらでもない」「どちらかといえばわるい」「わるい」と回答した。今後も訓練の趣旨を理解していただくように、説明を十分に行って実施していく。 地震、火災を想定した避難訓練は、実際に起きた場合に児童生徒、教員が安全に避難できるように反省をもとに改善していく。
進路指導	情報提供	自立と社会参加を目指した情報の発信	進路説明会、教員の研修等を通して進路の情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、説明会前に保護者アンケートをとり、各部の保護者のニーズに合わせた内容を取り入れながら実施した。保護者のニーズを踏まえ、各部の説明会の中で外部講師を招き保護者への講話の機会を作った。 教員の研修関係では、現職研修の一つとして、進路についての情報発信を行った。今後、より有効な進路に係る情報提供のあり方について計画を作成し行っていく。

保健体育	食育の推進	児童生徒の健康教育の推進	<p>食に関する指導の全体計画を教員に周知し、食育の推進を図る。</p> <p>給食だよりの充実による情報提供を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導の全体計画の周知を図った。教務と連携し、年間指導計画に食育に関する事については印を付けることにした。印を記入していない箇所も見受けられたので、来年度、再度周知を図っていく。食育に関する学期ごとの課題や反省を生かすために、関係教員を中心に話し合いの場を設けるなど、さらなる食育の充実を目指していく。 ・今年度は献立投票を実施した。今後も、児童生徒が食に対して興味・関心をもてるような取組を行っていく。 ・給食試食会など学校の教育活動全体を通じ、保護者の声を聴いたり集めたりしながら、保護者が求める情報を給食だよりに掲載していきたい。
相談支援	地域支援 自立活動	<p>特別支援教育の専門性の向上</p> <p>自立活動の指導の充実</p>	<p>各種研修会を実施し、教員の資質の向上を図る。</p> <p>自立活動の指導についてのマニュアルの活用と研修会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初計画していた本校教員と地域の小中学校等の教員を対象とした研修会は中止としたが、動画配信による教材教具の紹介と展示を行い、参加者との情報交換を行うことができた。本校教員対象の選択研修会は少人数で実施した。研修機会が少なくなっているため、今後は校内資源を活用し、ニーズに応じた内容を実施していく。 ・自立活動の指導に関する知識や情報は教員に広がりつつあるが、目標設定や指導内容、書式などに課題もある。マニュアルをより活用しやすいものに改善し、活用の啓発を進めていく。
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として、小、中、高の各部において社会生活を見据えたキャリア教育について、児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育の充実という視点を踏まえ、各教育活動について検証および実践を行った。この点については、保護者アンケートにおいておおよそ8割の保護者から評価された。今後、さらなる充実を図っていきたい。 ・積極的な情報発信という点では、ホームページのリニューアルや臨時休業中のデジタル教材の発信等を行ったが、保護者アンケート結果から、ホームページの有効活用、デジタル教材の発信の仕方等、今後改善が必要な点が明らかとなった。今年度の取組を検証し改善していく。また、各種説明会については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定していた内容を十分に行うことはできなかった。しかし、保護者アンケートから、保護者が望んでいる内容を明確にすることができたことから、次年度以降、計画的な情報発信に努めていく。 ・教員の資質向上に向けた校内研究においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け外部講師による研修の機会は得ることができなかったが、研修部と各校務分掌が連携し、校内資源を有効に活用し幅広い内容の専門性を高めた。 	